

## 吉良氏と世田谷城

世田谷城は、清和源氏・足利氏の一族である吉良氏の居城として知られています。

貞治5年(1366)、吉良治家によって築城されたといわれていますが、定かではありません。永和2年(1376)に吉良治家が鎌倉八幡宮にあてた文書から、おそくとも14世紀後半にはこの地に吉良氏が領地をもっていたことがわかっています。

応永33年(1426)には「世田谷吉良殿」などと称され、足利將軍家の御一家として諸侯から一目置かれる存在でした。また、15世紀後半には江戸城の太田道灌と同盟関係を結び、武蔵国の中心勢力として繁栄します。

その後、吉良頼康の代には、小田原北条氏と縁戚関係をもつようになりますが、天正18年(1590)、豊臣秀吉の小田原攻めによる北条氏の没落に伴い、吉良氏は上総国生実(現千葉市)に逃れ、世田谷城は廃城になりました。

その後しばらくして、当地は彦根藩井伊家の所領となりますが、城内にあったとされる吉良氏の小庵、弘徳院は豪徳寺の前身といわれています。



江戸名所図会にみえる世田谷城跡



世田谷城跡周辺 平成19年(2007)撮影



世田谷城の城郭構造(推定)

## 城郭構造

世田谷城は目黒川の支流、烏山川が大きく蛇行する地点の北側、三方を川に囲まれ、南側に突き出した台地上に築かれています。また、城北方をとる薄坂道と東方の鎌倉道が交差する交通の要衝にあっています。

城郭の構造としては中央に位置する郭(A)は南北約120m、東西約60mほどの広さで、本来は南北に開口していたと考えられる台形の土塁に囲まれています。

世田谷城址公園には、土塁と堀の一部が残っています。

世田谷城の範囲については諸説あり、規模は判然としませんが、現時点では、この郭(A)を中心として複雑に展開する8カ所以上の郭や土塁・堀で構成され、郭(A)~(G)周辺を非常時の「詰城」、北側の豪徳寺部分を「吉良氏館」と推定し、このふたつが一体となって「世田谷城」を構成していると考えられています。



堀の土層断面(★印の地点)



南西側から見た郭(C)の土塁



郭(A)内で発掘された井戸

世田谷区 SETAGAYA-KU  
平成22年(2010年)

## 公園の案内板より

## 世田谷城跡(世田谷城址公園)

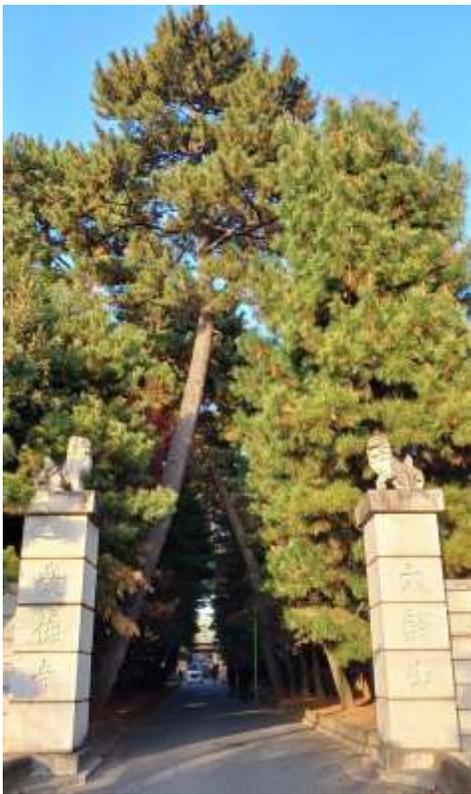
昭和15年に開園した世田谷区内唯一の「歴史公園」で「東京都指定文化財」にもなっています。公園内には、昔のおもかげを残す土塁や丘、谷があり、樹木に覆われた自然豊かな公園で、世田谷百景にも選ばれています。さぎ草の伝説の主人公「常盤姫」もここに住んでいました。なお、世田谷城は、初代吉良氏が南北朝の頃、関東管領・足利基氏から、戦の手柄により、武蔵国世田谷領をもらいうけて築城したのが始まりであると言われています。以後、吉良氏八代、二百数十年の間、居城として栄え、吉良御所、世田谷御所と呼ばれました。1590年(天正18年)豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼしたとき、北条氏と親戚関係にあった吉良氏も運命を共にしたため、廃城となりました。[世田谷区ホームページより]



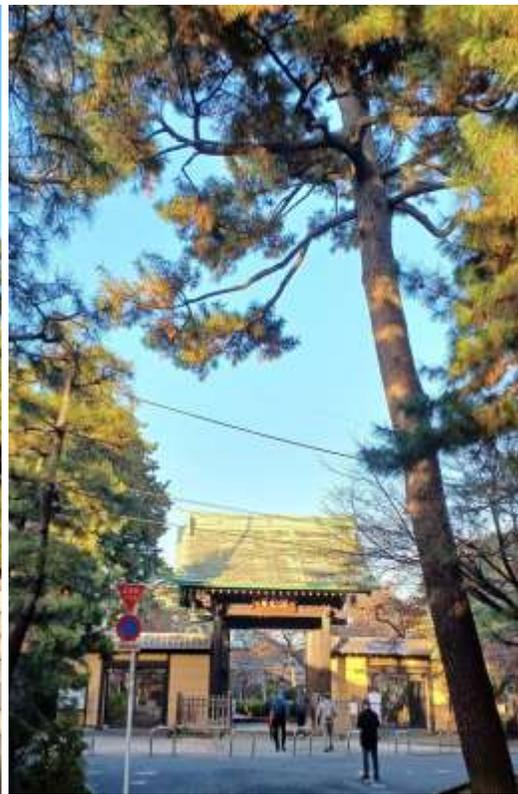
土塁を越える野草の会メンバー



世田谷城跡の紅葉



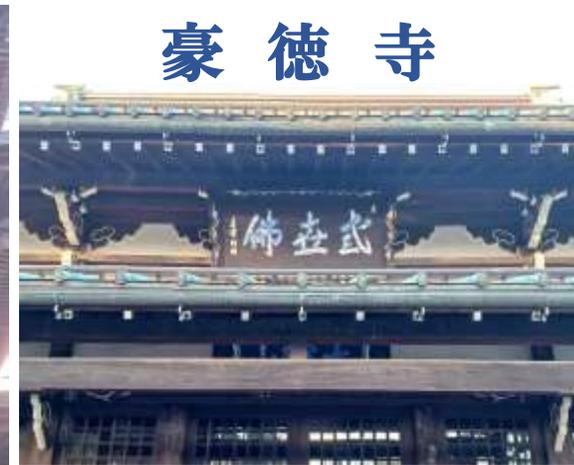
参道の松並木



参道を抜けて山門へ



三重塔(1階と2階にネコが)



三世仏を奉る社殿の額。三の異体字『弑』が



三重塔の『招き猫』をよく見ると、十二支の子(ネズミ)のところにネコが書き加えてある



無名戦士慰霊記念碑



三世仏を奉る仏殿



阿弥陀を囲む招き猫



若い女性や外国人の参拝が目につく



『招き猫』は絵馬ではないので家に持ち帰るよりの注意書き(英語と中国語で日本語はない)



松陰神社のタチバナの木



タチバナの実

その日に  
出会った  
植物たち



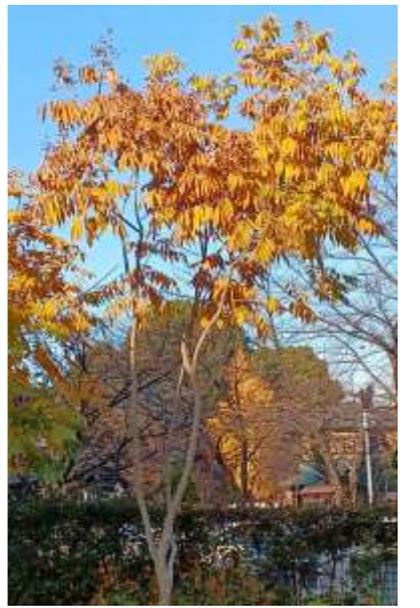
クチナシの実



センリョウの実



アキグミの実



若林公園の黄葉



イノギク



美しい黄葉と木肌



クスノキの高木



ランタナ



街角のピラカンサ